



初日の出に照らされる富士山。星の里近くから望む = 北杜市長坂町小荒間

Line Up

- P2~3.....新年のご挨拶
- P4~5.....日野春學舎GH整備通信Vol.1
- P6.....新型コロナウイルス各事業所の対応
- P7.....はるのひ・なのはな利用者作品展、施設・事業所だより
- P8.....お知らせ



令和3年(2021)  
1月発行 30号

迎春



理事長  
坂本ちづ子

年末、何気なくラジオのスイッチをひねると、飛び込んできたのはベートーヴェンの「歓喜の歌」と呼ばれる合唱付きの交響曲「第九」でした。あ、こんな時期だとふっと和み、高揚感を覚えたのですが、今まで以上に現場で緊張感を抱きながら支援に当たっている皆さんには、申し訳なさと感謝の気持ちでいっぱいでした。

八ヶ岳名水会が転換期であることを提起して3年目。昨年は日中活動、グループホームの改廃、ならびに再整備を実施しました。本年は地域、社会情勢が時々刻々と変わりゆく中で、新たな5年、10年という中期の第1弾に入ります。方針としては、人としての尊厳を守ることをあらためて意識し、「施設ケア」から「在宅ケア」へ舵を切っていきます。暮らす場所の環境づくりや整備が一人ひとりに沿ってなされていくとき、自ずと支援の仕方も変わっていく、変えざるを得なくなります。

具体的には、2つの計画があります。この2計画は連動しており、準備を進めています。

その一 入所施設の個室化と定数減、施設の老朽化対策に向けた暮らしの場所としての一層の整備

その二 地域に点在するグループホームの合併あるいは廃止に伴う新たなグループホームの整備

利用される方々を困らせることや窮地に追い込むことがないことを前提に、縮小、再編が始まっています。転換期の視点は「大から小へ」「量から質へ」「単独から複数・分かち合いへ」等々、それぞれが役割をもって難局を乗り越えていきます。

「道には、いつも曲がり角があるのだ。曲がった向こうには素晴らしい世界があるって信じていくわ」と、モンゴメリは「赤毛のアン」（松本侑子新訳「赤毛のアン」）の中で、励ましと勇気と背中をおしてくれる愛の言葉をアンに語らせています。世界中が曲がり角に直面して、苦心惨憺しています。みんなで知恵と力を出し合って、まずは足元から。

年の瀬には、おなかの底から「歓喜の歌」が歌えることを信じて進みます。共に手を携えて歩んで参りましょう。本年もどうぞよろしくお願い致します。



監事  
手塚邦彦

新年おめでとうございます。

新しい年は、どんな人にも必ず来ます。子どもの頃、元日の朝、下着と服と足袋と下駄を新調してもらいました。正月は大きな節目であり、スタートになっていました。

人生にも法人にも、いくつもの節目があり、その時、何を想い、どういう方向を目指すのかが問われます。

♪君の行く道は果てしなく遠い  
君の行く道は希望へと続く♪

と歌ったあの頃があって、今は、

♪本当にだいいじなもの隠れて見えない  
ささやかすぎる日々の中に  
かけがえのない喜びがある♪  
というフレーズに心惹かれます。

以前、理事長をなされた森寅雄先生が私の小学5年生の担任でした。学校で「しいのみ学園」という映画を見たのが障害者を意識した最初です。

肢体不自由の子が懸命に歩く姿をみんながまねたら、森先生が激怒し、涙を流しながら語ってくれたことが鮮明に思い起こされます。「本当にだいいじなもの」を教えてもらいました。

あれから長い年月が経過し、障害を持ちながら生きる人々を見る目や、取り巻く環境が大きく変わってきたことを実感しています。福祉の現場で働く人たちが、利用者さんの気持ちになって取り組んできた結果だと思っています。

八ヶ岳名水会が変わるためには、現場で仕事をする人の声がまとまり、身近な北杜地域と共に歩む姿勢をつくりだすことだと思っています。地道な一歩一歩が大きな信頼をつくりだすはずですよ。



監事  
中井俊機

あけましておめでとうございます。広報誌「虹いろ」も30号を迎えられ、重ねてお祝い申し上げます。

コロナに明け、コロナに暮れた昨年は、「新型コロナパンデミック」として近代史に残る1年となったことでしょう。皆さまも日々の生活・仕事に多大な影響を受け、ごく当たり前の日常がいかにかに有難いことかを実感されたことと思います。

感染に関わる情報を大量に見聞するうちに、だんだんコロナ強迫神経症にかかりそうな感覚になります。コロナを恐れるあまり過剰に反応したり、互いに疑心暗鬼になってしまったりする恐れもあります。しかし、人類はウィルスとの闘いの歴史ともいわれていますから、近い将来コロナを克服するか又はバランスある共存の時が来ると期待しています。

とはいえ、まだしばらくは続くであろうコロナとの共存を図るために、人は様々な知恵と工夫により生活面・仕事面でこれを取りこえようとしています。具体化はまだ先の夢物語と思われるAIやロボットも、現状の課題解決手段として一気に開発スピードを加速していくことでしょう。自動運転や難病の自動診断などはすでに直近のゴールになっています。

障がい者や高齢者の支援や介護は、対面式エッセンシャルワークの一つと思われていますが、この分野にも我々が想像する以上のスピードで、AIやロボットが導入されてくるのではないのでしょうか。人の平均寿命は、10年ごとに2年延びるといわれています。今20代、30代の若い世代は、確実に人生100年時代を迎えます。AIやロボットが席卷している未来でも人間らしい力を発揮するためには、共感力や創造力を具備した専門的知見や倫理観が求められます。若い方々には日々是努力・研鑽を積み、くれぐれもAIやロボットに使われることの無いようにしてほしいと願っています。

社会福祉法人八ヶ岳名水会は、令和4年度までに日野春學舎（旧日野春小学校）をグループホームに改修し、敷地内を一体的に整備する大規模計画を策定中です。計画（仮）の概要は保護者や地域の方々にご案内差し上げているところです。広報誌「虹いろ」では、計画の詳細や進捗状況などをお知らせする「日野春學舎グループホーム整備通信」を、以後数回に渡って特集していきます。

### ①計画の概要

保護者説明会や地域回りでお話した計画（仮）の概要をあらためて説明いたします。

この計画（仮）は、旧北杜市立日野春小学校舎を障害がある方の住居となるグループホームに改修すると共に、敷地内に付随施設や地域共有施設を設ける一体的整備計画です。日中（昼間）活動が集中する日野春地域に生活（住居）の場を設けることで、人員不足のなかでの効果的な支援体制の確立を目指します。老朽化した周辺グループホームの集約と障害者支援施設（入所施設）星の里の定員削減（＝地域移行）も図ることができ、将来にわたる安定した支援体制の構築も可能となります。地域の方々への説明も継続し、ご理解をいただきながら、令和4年5月の工事着工、令和5年度中の運用開始を目指しています。

就労継続支援  
B型作業棟

生活介護棟

法人本部棟

体育館

エレベーター兼  
ランドリー棟

旧日野春小学校  
グループホーム化計画（仮）  
イメージ図

グループホームは建物の骨組みを生かしながら、1階に5人が暮らすユニットを2棟、短期入所（ショートステイ）の部屋を6室、2階に10人が暮らすユニットを2棟として改修する計画で、計30名（短期入所利用者を含めると+6名）の方が利用することとなります。校舎南側にはいずれも木造建てで、西側から法人本部棟、エレベーター兼ランドリー棟、生活介護棟を設け、校舎北側には就労継続支援B型の作業棟を整備する予定です。

1階は高齢や重度の障害の方に対応するバリアフリーな造りを基本としていて、生活空間以外にも相談支援事業所のスペースを確保します。2階はご自身で一定の生活ができる方に対応する造りとしていて、地域の方々との交流ができるスペースを設けます。

校舎南側の本部棟は法人本部（事務局）として、2階建てのエレベーター兼ランドリー棟はグループホーム利用者さんの洗濯を一手に担うランドリー機能と生活介護の活動機能を兼ね備えた場所として、生活介護棟は重度の障害がある利用者さんの活動場所としての利用を検討しています。

校舎北側の就労継続支援B型の作業棟は、多機能型事業所のはら楽団の就労活動拠点としての整備を考えています。このほか、体育館やグラウンドはこれまで同様、地域の方々と一緒に活用していくと共に、災害時には防災拠点としての役割を果たしていくことで変わりありません。

「地域の一員」として、この地に根差し、貢献していきたい所存です。

常務理事・福祉事業局長

長田和也

# 日野春学舎グループ

## 陶芸を日野春の風景に

理事・YAN山梨アール・ブリュットネットワークセンター長  
瀧澤 聡



昨年8月からスタートした日野春学舎での陶芸ワークショップも1月で6回目を迎えた。このワークショップの講師である村木さんご夫妻は、月に1回というペースで滋賀県信楽町から粘土を積んだ車を5時間走らせて山梨に来てくださっている。

村木さんご夫妻は利用者のタイミングに合わせて、粘土の形を提案する。押し付けるのではなく、寄り添う。最小限の声かけをして、利用者が何を望んでいるかに集中して観察している。会話は最低限でありながら、粘土を通してのやり取りは続き、探るように粘土の形を素早く整えて利用者の掌に渡す。息があった瞬間にお互い嬉しさを顔がほころぶ。ある利用者は粘土に興味を示さない日があるが、村木さんは寄り添い続ける。興味を示さない利用者に対して、村木さんは平らに伸ばした粘土をそっと目の前に置き、気持ち粘土に向かうまで待ち続ける。「手強いなあ。」と言いながら、

「次回会った時にどんな提案だと喜んでくれるかな」と楽しそうに利用者向き合う。

グループホーム化を目指す日野春学舎に陶板（陶芸のレリーフ）を設置する案を法人内で検討し、陶芸家の村木さんご夫妻に依頼をして準備を進めていた。陶板の制作のみの依頼であったが、関係者から表現活動として取り組むことを提案してくださったことにより、この陶芸ワークショップはスタートした。さらに改修工事の着工が1年延期になり、陶板を作る構想が発展して、学舎北側の道路沿いに植栽と一緒に陶芸作品を設置する案や、新しいグループホームの生活の場にワークショップによって生まれた陶タイルを取り入れる案が検討されている。

日野春学舎で制作した作品は、ご夫妻が乾かないうちに信楽のアトリエに運び、乾燥・素焼き・釉薬・焼成まで行ってくださっている。10月にご夫妻と打ち合わせの為、滋賀県信楽町のアトリエ「のらちん工房」を尋ねた際、利用者が制作した素焼きの終わった作品に釉薬をかける作業を手伝った。釉薬は焼かれることで色が変化する為、液体状の時には色がわからない。この釉薬をかける骨の折れる作業ひとつをとっても、陶芸が根気のある作業で、プロの力を借りなくては連年の工程を行うことは困難であると理解

できた。

焼き上がった作品を見た利用者や職員は喜びの声を上げ、星の里の利用者は椅子となって戻ってきた自身の作品にとても誇らしげだった。ご夫妻のご指導の下、陶芸ワークショップによって生み出される利用者や職員の喜びの風景が継続的なものとなり、八ヶ岳名水会の表現活動として定着することを願っている。これからも作品に触れることが楽しみでならない。



## 新型コロナウイルス 各事業所の対応

感染拡大が一向に止む気配のない新型コロナウイルス。非対面でのテレワーク等による働き方に移行する企業が全国的にも増えているなか、福祉の現場では利用者さんたちと顔を合わせた対面形式の変更は簡単ではありません。福祉の現場でどのような対応が可能か。各施設・事業所の感染防止の取り組みを、広報委員より紹介します。

### 星の里

#### 最適な湿度で

星の里では、部屋を最適な湿度に保つために、加湿器を設置しました。設置したのは、食堂、男女のDルーム、金木屋の4部屋。各居室では、濡れタオルを干して、空気が乾燥しないように対策をしています。このほか、日中と夜間に、業務用の噴霧器で玄関や廊下、トイレ、手すりなどを消毒するなど、感染防止対策に最善の注意を払っています。

(魚多和輝)



### キッズクラブひまわり

#### 横並びのお昼ごはん

キッズクラブひまわりでは、昼食やおやつのときに、机に並ぶ人数を制限し、横に並んで食べる取り組みを始めました。



これまでは好きなお友だちと好きな場所に座って、おしゃべりしながら食べていましたが、感染防止について子どもたちも良く理解し、納得した上で、食事、おやつを楽しんでいます。遠くにいるお友だちとおしゃべりをしたくて大きな声が出ることもあり、たまーに「しー、小さな声で」と言われることもありましたが、たくさんの我慢を強いられている子どもたち。新型コロナウイルスの早期収束を願うと共に、また以前のように子どもたちの元気な声が響き渡る日々を待ち望んでいます。

(山坂奈津美)

### のはら楽団

#### 予防に「愛情」注入

のはら楽団では、感染防止に役立ててもらおうと、利用者さんと職員でオリジナルマスクを手作りしています。製作は昨年5月から始めました。一つひとつがオリジナルで、「愛情」を込めて作っています。毎日の皆さんの生活に少しでも彩りが与えられたらうれしいです。



問合わせはのはら楽団  
☎0551-45-7026  
(樋口和穂)

などの寄付も受け付けています。

### らいむ／ふらっと

#### 電話やオンラインで柔軟に

利用者様と事業所をつなぐ「役割を担う「らいむ」と「ふらっと」は、感染防止を図るため、サービス利用状況の確認や聞き取りなどを、これまでの対面形式だけでなく電話などでも柔軟に対応できるようにしました。

利用者様などからの非対面での要望もあるため、今後とも意思をきちんとくみ取っていきます。研修会などではビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」の導入も始めていて、今後とも対応方法を各市町に確認しながら模索していきます。



(望月洋美)

このほか、移動時の感染リスク軽減を図るため、昨年12月からは車内飛沫防止のアクリル板を設置したり、ポータブル空気清浄機「エアリーセツト」を装備したりして、利用者様が安心して同乗できるような配慮もしています。

### ふぁーすとまっぷ

#### 入室ルールをシステム化

障がい者総合相談支援室「ふぁーすとまっぷ」（韮崎市民交流センターNICO内）では、感染防止対策機器の充実を図り、入室する際のルールをシステム化しています。

同室に事業所を構える障がい者就業・生活支援センター陽だまりが昨年12月上旬に購入したのは、検温機能付きの非接触型自動消毒液噴霧器です。入室時には、器械に手をかざして手指を消毒した後、手のひらや額を器械に近づけて体温を測定。備え付けの用紙に氏名や入室時刻、検温結

果を記入して、異常がなければ入室が許可されるルールになっています。

感染防止対策に伴う職員の労力削減を図るため、器械には初めての来室者でも分かるように器械の取扱方を記した手作りポスターを張り付け、夫をします。

(坂本一真)



## 『第11回 みえないことづけ』

はるのひ・なのはなは2月26日（金）から、北杜市長坂町大八田のショッピングセンターきららシティで、利用者活動作品展『第11回 みえないことづけ』を開催します。これまで旧・菜の花単独での開催でしたが、昨夏の通所事業所再編に伴い、旧・春の陽の利用者さんも加わり、約20点が並びます。

日頃の造形活動の成果を発揮する場にしようとして、毎年企画しています。利用者さん約30名による一人ひとりの個性を活かした書道や絵画、造形作品が並びます。展示方法の工夫も見どころの一つです。このほか、今年から日中活動の一環として、信楽焼の陶芸ワークショップにも参加していて、陶芸作品の綺麗な光沢や形にも注目してみてください。

新型コロナウイルスの拡大時期でもありますが、1人でも多くの方に作品を見ていただき、元気を与えることができれば、職員、利用者一同光栄です。1年間の集大成をぜひご覧ください！

期 間：令和3年2月26日（金）～3月6日（土）  
時 間：午前10時～午後8時。

※最終日は撤収作業のため、正午まで。

場 所：ショッピングセンターきららシティ（北杜市長坂町大八田160）  
問い合わせ：はるのひ・なのはな／担当・三井 0551-45-7501



### 施設・事業所だより

#### 甘いリンゴをもぎたてで

のほら楽団は昨年11月25日、北杜市須玉町内の畑で、リンゴ狩りをしました。

毎年恒例行事で、利用者さん約10人が参加。利用者さんたちは真っ赤に実ったリンゴを手でもいで、地面に広げたビニールシートの上で、丸かじりをするなどしてほお張っていました。収穫したリンゴはおやつの際間に食べたほか、ジュースに加工するなどしました。



#### 聖なる夜にご馳走ずらり

グループホーム「5」は昨年12月26日、毎年恒例のクリスマスパーティーを開きました。

世話人がビザ、チキン、スープ、ケーキなどに腕を振るい、聖なる夜の食卓を彩りました。パーティーを楽しみにしていた住人さん8人は開始時間前より早めに集まると、ジュースなどで乾杯をし、豪華な食事に舌鼓を打っていました。



#### 写真を撮って！

#### ハッピー★ハロウィーン

はるのひ・なのはなは昨年10月27日、ハロウィーンに合わせて、絵やオブジェを飾り付けた写真スポットを設置し、写真撮影を楽しみました。

利用者さんが制作したカボチャのお化けで飾られたスポットを背景に、利用者さんはマントを被ったり玩具の包丁を持ちたりして仮装して、一人ずつ写真を撮りました。このほか、「出張ハロウィーン」と題して、移動をしたくない利用者さんには、その利用者さんのところへ出向いて写真を撮るなど思い思いのハロウィーンを満喫しました。みんなの「ハッピー」が溢れた一日、大笑いの一日でした★



#### 昔ながらの正月遊びに挑戦

キッズクラブひまわりは1月6日、昔ながらの正月遊びを楽しんでもらおうと、こま回しと羽根つきをしました。

こま回しでは初めて挑戦する子どもも多く、苦戦しながらも回ったときには大喜びでした。諦めずに何度も挑戦する子、回っているこま自体の様子をじっと観察する子、回し方を変えて楽しむ子など、それぞれの方法で遊んで過ごしました。羽根つき大会では、羽根の当たる音を心地よく感じながら何度も挑戦している様子が見られました。このほか、たけのこGUNGUNでは、それぞれお願いごとや絵、模様などをかいた絵馬を作りました。作った絵馬は、施設内に設置した「たけのこ神社」に奉納しました。素敵な1年となりますように……！



## 題字提供者

新田 千枝さん  
(YAN山梨アール・プリユット  
ネットワークセンター職員)

## 訃報

第3代理事長 後援会長

藤森 昭吾様

令和2年10月27日 享年89歳

グループホーム大坊／

はるのひ・なのはな利用者

加藤 悦子様

令和2年11月25日 享年84歳

元評議員

鈴木 信行様

令和2年12月23日 享年83歳

はるのひ・なのはな利用者

守屋 雅裕様

令和2年12月31日 享年34歳

第三者委員

清水 毅様

令和3年1月12日 享年62歳

## 編集後記

雲一つない空。透き通った空の青色が山肌に近づくとつれ、わずかに赤みを帯びる。元旦、くっきりと輪郭を現した富士山が美家の2階から見られた。子どもだったときと比べて、ゆつくりと空を見上げることが少なくなっただため、毎年この時期になると、あらためて色の多さに驚かされる▼なぜ昼間の空は青く、夕方の空は赤いかなど、これまできちんと考えてこなかった。調べてみると、そもそも太陽の光が7色からできていることに起因するという。「虹」が7色なのも、合点がいく▼『虹いろ』は美しい様々な色。それは、多様な人々の繋がり、支えを想起します。また、虹は人と夢とを繋ぐ希望の架け橋です。この世界に生きる全ての人の夢を繋いで欲しいとの願いを込めて(略)。本誌「虹いろ」の第1号に書かれていたタイトルの由来だ。発行開始から9年以上が経った今でも、その思いは色あせることはない▼今回は虹いろの第30号。今もこれからも「希望の架け橋」であるためには。節目にいま一度、八ヶ岳名水会の原点にも立ち返ってみる。(宣)

## 社会福祉法人 八ヶ岳名水会

本部所在地 〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間 1095-7

TEL 0551-32-7355 FAX 0551-32-7350

E-mail meisukai@y-meisui.or.jp

ホームページ <http://www.y-meisui.or.jp/>



### 広報委員会

委員長 坂本一真 (事務局)

委員 魚多和輝・長澤克 (星の里) 高田愛子・穂坂雄太・三井千穂 (はるのひ・なのはな)

樋口和穂 (のはら楽団) 山坂奈津美 (キッズクラブひまわり) 廣瀬直美 (グループホーム)

清水めぐみ (生活支援センター陽だまり) 望月洋美 (らいむ／ふらっと)

瀧澤聰 (YAN山梨アール・プリユットネットワークセンター) 奥村仁美 (事務局)

印刷 株式会社ピー・エス・ワイ